

## 1. モモ極早生品種‘はなよめ’の特性（技術）

## [要約]

6月下旬に成熟するモモ極早生品種‘はなよめ’は‘ちよひめ’と同時期に成熟し、この時期に成熟するモモとしては大果で玉揃いが良く、外観が優れ、日持ちがよい。また、仕上げ摘果を満開後33日まで早めることによって中生種並みに肥大する特性を有する。

研究室名	果樹研究室	連絡先	0869-55-0276
------	-------	-----	--------------

## [背景・ねらい]

極早生品種として有望な‘はなよめ’の果実品質および生育特性についてまとめ、導入、栽培上の資料とする。

## [成果の概要・特徴]

## 1. ‘はなよめ’の来歴

山梨県東八代郡の志茂勝弘氏が昭和59年に購入した‘日川白鳳’より採穂・養成した苗木の中から昭和63年頃に特性が異なる木を発見し、平成7年に第4365号の種苗登録品種となった。

## 2. 品種特性

## (1) 樹の特性（表2）

1) 樹姿、樹の大きさ、樹勢はともに中程度で‘ちよひめ’とほぼ同じである。

## (2) 花の特性（表2）

1) 花粉があるため人工受粉する必要はない。

## (3) 果実の外観（表1）

1) 成熟期は6月下旬で、盛期は‘ちよひめ’とほぼ同じである。

2) 果実の大きさは‘ちよひめ’に比べて約30g大きい。

3) 果実は円形で、短楕円形である‘ちよひめ’より外観が優れる。

## (4) 果実の品質（表1、表2）

1) 糖度は極早生品種では高糖度である‘ちよひめ’とほぼ同程度である。

2) 食味は‘ちよひめ’よりわずかに劣るが、極早生品種としては優れる。

3) 日持ちは中程度であるが、‘ちよひめ’に比べて優れる。

## 3. 予備摘果、仕上げ摘果の同時処理による肥大促進（表3、表4）

(1) 仕上げ摘果時期を満開後33日に行うと、成熟果実が大きく、糖度が高い傾向があった。食味、核割れ率、果皮着色は慣行時期に仕上げ摘果した果実と大差なかった。

(2) 仕上げ摘果から成熟期までの生理的落果率は仕上げ摘果を早めても5.5%程度であり、慣行の樹と大差なかった。

以上の結果、極早生品種の‘はなよめ’は大果で玉揃いが良く、外観が優れ、糖度が高く、日持ちがよい。しかも、仕上げ摘果を予備摘果時期にまで早めることによって中生種並みに肥大する特性を有する。

## [成果の活用面・留意点]

1. 岡山県準推奨品種で極早生品種の‘日川白鳳’より更に1週間程度早く成熟する有望品種として期待できる。

2. 仕上げ摘果時期は満開後33日までで、それより更に早い場合の検討はしていない。

3. 摘蕾による肥大促進は現在検討中である。

[具体的データ]

表1 ‘はなよめ’の果実品質(平9~15年)

品種名	成熟期			果実重 (g)	糖度 (Brix)	食味 (1-9)	日持ち	玉揃い	渋味	核割れ (%)	果皮着色	果肉着色
	始	盛期	終									
はなよめ	6/19	6/21	6/22	175	11.6	4.2	中	良	無	21.7	少	無
ちよひめ(対照)	6/18	6/20	6/21	143	11.8	4.9	不良	中	無	4.0	少~中	無
日川白鳳(参考)	6/28	6/29	7/1	200	12.6	4.8	不良	良	無	13.3	多(無袋)	多

注) 食味値は1(下下)~5(中中)~9(上上)の9段階評価

果皮着色はオレンジ無底袋をかけた場合の程度。

日川白鳳にオレンジ無底袋をかけた場合の果皮着色は少。

ちよひめは5年間、日川白鳳は3年間の平均

表2 ‘はなよめ’の特性

	樹姿	樹勢	生理的 落果	満開期 (過去5年の平均)	花粉	果形	肉質	果汁	果皮着色 の濃さ	果肉内 着色	裂皮
はなよめ	中間	中	少	4/9	有	円	中密	多	濃	無	無
ちよひめ (対照)	中間	中	少	4/7	有	短楕円	軟密	多	濃	無	無

表3 仕上げ摘果時期の違いが‘はなよめ’の果実品質および生理的落果に及ぼす影響

仕上げ摘果時期	果実重 (g)	糖度 (Brix)	pH	食味 (1-9)	核割れ率 (%)	果皮着色	生理的落果率 (%)
満開後33日	241	12.1	4.8	4.5	0	少	5.5
満開後39日	179	11.3	4.6	4.5	0	少	3.1

[その他]

試験研究課題・事業名：果樹導入品種の選定

予算区分：県単

研究期間：昭和42~平成15年度

関連情報等：なし